



2022年3月31日  
国立大学法人京都大学  
日立造船株式会社

## 京都大学に産学共同講座「脱炭素工学研究」を開設

～京都大学と日立造船、廃棄物・資源循環分野のカーボンニュートラルに向けた技術開発を推進～

国立大学法人京都大学（所在地：京都市左京区、以下「京都大学」）と日立造船株式会社（本社：大阪市住之江区、以下「日立造船」）は、このたび、廃棄物・資源循環分野におけるカーボンニュートラルに向けた技術開発を共同で行うことに合意いたしました。本合意に基づき、2022年4月1日付で、京都大学桂キャンパス内に、京都大学大学院工学研究科の高岡昌輝教授をはじめとする研究グループと日立造船による産学共同講座「脱炭素工学研究」を開設します。

廃棄物は見方を変えれば都市に集積された資源であり、再資源化やエネルギー回収などの有効活用を図り、同時に環境汚染を最小化し、循環型社会を形成することが求められています。さらに、地球温暖化問題の台頭以降、低炭素社会の構築が求められてきました。廃棄物・資源循環分野においても、廃棄物の排出抑制、リサイクルの促進、省エネや高効率発電などが推進され、効果を上げてきました。しかし、1.5℃目標の達成を目指し、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする社会、つまり脱炭素社会の構築となると、今までの延長線上の技術のみでは実現は困難で抜本的なアプローチを加えなければなりません。実質排出ゼロを実現するためには廃棄物・資源循環分野での脱炭素技術を開発し、着実に社会に実装していく必要があります。特に、都市インフラの一つである廃棄物・資源循環関連施設は慣性の大きいシステムであり、いち早く取り掛かる必要があります。

この危機感を京都大学と日立造船では共有し、新たな挑戦を決意し、産学共同講座をスタートすることとしました。本講座では、廃棄物・資源循環分野での温室効果ガスの実質排出ゼロを目指し、既存の廃棄物の熱化学変換プロセスを見直し、エネルギー・資源への飛躍的な変換及び回収・循環を目指した技術開発を進め、社会に実装することを目指してまいります。

### <産学共同講座概要>

- ・講座名：脱炭素工学研究
- ・英語名：Collaborative Laboratory for Neutral Emission Technology
- ・教授：京都大学 大学院 工学研究科 高岡昌輝
- ・特定准教授：京都大学 大学院 工学研究科 原田浩希（日立造船より出向）

- ・ 特定助教：京都大学 大学院 工学研究科 Oleszek Sylwia
- ・ 設置期間：2022 年 4 月～2025 年 3 月（3 年間）

**本件に関するお問い合わせ先**

京都大学大学院工学研究科 都市環境工学専攻  
環境デザイン工学講座 高岡昌輝

TEL：075-383-3335

FAX：075-383-3338

mail：takaoka.masaki.4w@kyoto-u.ac.jp

日立造船株式会社

経営企画部 広報・IR グループ

TEL 06-6569-0005

FAX 06-6569-0007